

vol. 9

2008. 9.10

## MONTHLY REPORT

マンスリーレポート



● コンソーシアム参加がん診療連携拠点病院  
● 参加大学・がんセンター

### 愛媛大学

愛媛大学大学院医学系研究科  
学務室大学院チーム  
TEL(089)960-5868

### 高知女子大学

高知女子大学学生課  
大学院担当  
TEL(088)873-2157

### 四国がんセンター

TEL(089)999-1111

### 岡山大学

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科等  
学務課大学院係  
TEL(086)235-7986

### 高知大学

高知大学医学部学生・研究支援課  
大学院教育担当  
TEL(088)880-2263

### 香川大学

香川大学医学部学務室  
(入試担当)  
TEL(087)891-2074

### 徳島大学

徳島大学医学・歯学・薬学部等  
事務部学務課大学院係  
TEL(088)633-9649

### 川崎医科大学

川崎医科大学学務課  
教務係  
TEL(086)464-1012

### 山口大学

山口大学医学部学務課  
大学院教務係  
TEL(0836)22-2058

<http://www.chushiganpro.jp/>

Mid-West Japan  
Cancer Professional Education Consortium

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム



### 趣旨・組織

がんは、わが国の死亡率第1位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等(コメディカル)の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です。そのため、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんに特化した医療人の養成を行うため、大学病院等との有機的かつ円滑な連携のもとに行われる大学院のプログラムが「がんプロフェッショナル養成プラン」です。

### ごあいさつ

当コンソーシアム事務局では、講演会、海外研修、学生募集などの連絡を目的としたマンスリーレポートを発行しています。

本プランは、中国・四国8つの大学が一つのコンソーシアムを作り、各大学院にメディカル、コメディカルを含む多職種のがん専門職養成のためのコースワークを整備し、これに地域の28のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門職を送り出すプログラムです。がんに関わる多職種専門職が有機的に連携し、チームとしてがん診療ならびに研究にあたることのできるよう職種間の共通コアカリキュラムの履修を出发点として教育研修を行います。また、国内外のがんセンターと連携し指導的ながん専門医療人養成のファカルティ・ティベロップメントを連動させ、がん専門職養成の教育能力を強化します。こうして専門的臨床能力、チーム医療や臨床研究の能力をともに身につけたがん専門職が数多く輩出されることにより、地域におけるがん治療の均てん化、標準化が期待されるとともに、臨床研究の活性化が期待されます。

本誌をきっかけに、大学院入学や各種セミナーへの参加等をご検討いただければ幸いです。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局



## 日本臨床腫瘍学会の動向

### がん薬物療法専門医

#### ■受持患者病歴要約作成要綱の改定■

日本臨床腫瘍学会専門医資格認定試験を受験するものはあらかじめ、過去5年間に当学会の認定研修施設において自ら経験した受け持ち患者(入院・外来は問わない)で、化学療法を実施した症例をまとめて資格審査委員会に提出します。

#### 現行制度

受け持ち患者は、造血器、呼吸器、消化器、肝・胆・膵、乳房、婦人科、泌尿器、頭頸部、骨軟部、皮膚、中枢神経、胚細胞、小児、原発不明の腫瘍のうちから少なくとも3臓器・領域より選択し、各臓器・領域3例以上で、1臓器・領域20例以下とし、総数30例を記載し報告します。

#### 改定

#### H25(2013)年4月以降に実施される資格試験より

受持患者病歴要約30例のうち、消化器・呼吸器・乳房・造血器悪性疾患を各3例以上、計12例以上報告することを必須とします。また、必須の臓器・領域が課せられることを考慮し、「過去5年間」から「過去7年間」に経験された症例の報告に変更します。

※がん薬物療法専門医試験資格として3臓器以上の腫瘍について30例の化学療法の症例報告が必要ですが、所属診療科によっては他臓器腫瘍の治療を経験するチャンスが無い場合も多いのが現実です。がんプロコースでは大学院の間に診療科の枠にとらわれず症例を経験することができます。

#### ■がんプロフェッショナル養成プランのもとで履修した大学院生について■

文部科学省がんプロフェッショナル養成プランに基づいたプログラムにて大学院医学博士課程を卒業したものに当たっては、卒業年の11月に実施される資格試験の受験を認めます。ただし、必要とする研修年限が5年に満たないものは、卒業年の次の年の3月まで本学会認定研修施設における研修を必須とし、指導医による終了証明書の発行を必要とします。H24(2012)年3月のがんプロフェッショナル養成プランのもとで履修した大学院卒業生より適用されます。



## 山口大学

### 山口大学大学院医学系研究科



研究科長 西田 輝夫

医学領域の発展は目覚しく、医療人の育成はもとより、研究面では医学領域のみでは国際競争に太刀打ちできない状況にあり、いわゆる社会的ニーズに対応する学際教育が求められています。

山口大学大学院医学系研究科として以下の明確な理念・目的を掲げ、人材育成に取り組んでいます。

1. 人間の健康の増進に資する可能性を探究し、生命科学の発展に寄与する研究を推進する。
2. 生命科学における社会・時代のニーズに対応できる専門的な知識と技量、並びに豊かな人間性と高度の倫理観を持つ人材を育成する。
3. 産・官・学連携体制を強化し、優れた創業を推進することにより社会に貢献する。

山口大学では最先端の研究を行うと共に、高い倫理観を持った研究者や専門的医療人を育成する理念と目的に向けて、従来の医学研究科の枠を越えた学際的研究科を目指し、医・工・理・農が連携する医学系研究科として改革を行ってきました。

平成13年度に、医・工連携による「応用工医学

専攻（博士前期・後期課程）」を、平成18年度に、医・工・理・農の連携による「応用分子生命科学系専攻（博士前期・後期課程）」を新設し、医学博士課程として「システム統御医学系専攻」及び「情報解析医学系専攻」の2専攻に再編しました。さらに「保健学専攻（博士前期・後期課程）」が新設され、現在5専攻による高度医療人および研究者の育成を実践しています。また、平成19年度には心臓・血管・肝臓等の難治性疾患の研究推進を通じて若手研究者を育成する目的で「修復医学教育研究センター」を設置しました。

平成19年度からは、「中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム」に参加し、医学系研究科に「がん治療専門医育成プログラム」として「臨床腫瘍専門医」「放射線治療専門医」「腫瘍外科専門医」の3コースが設置されました。参加する他大学との協力のもと、がん治療専門医を育成すると共に、コメディカル教育も行い、がん専門医療人の育成に貢献いたします。

### 山口大学医学部附属病院



病院長 松崎 益徳

山口大学医学部附属病院は、1944年（昭和19年）に設立され、今年で64年を迎えます。全ベッド数736床、25診療科と21の診療部を擁し、あらゆる分野の疾患を総合的に治療できる人的体制および設備が整っています。また、わが附属病院の基本理念である「患者の立場に立った全人的医療を実施し、医療人を育成すると共に先進医療を推進する」にそって、心臓、脳血管疾患や交通外傷などの救急医学からがんの診断・診療までを幅広く研修できる環境を整備し、研修医教育、医師、コメディカル教育が行われています。

がん治療においては体幹部定位放射線治療装置、先進医療を担う再生・細胞治療センターなどを整備し、最先端のがん診断・治療を世界に発信する大学病院を目指しています。平成19年からは山口県がん診療連携拠点病院に指定され、県内の地域拠点病院と共にがん治療成績の成績向上とがん専門医療人を育成することに努めています。また、山口県地域がん登録センターとして、全県におけるがん情報を発信し、地域医療への貢献をさらに推進しております。

山口大学医学部附属病院の理念・目標

1. 患者の立場に立った全人的医療を実施する。
2. 将来を担う医療人を育成する。
3. 世界に発信する先進的医療を推進する。
4. 地域医療を発展させる。

山口大学の主ながん専門医療人

日本がん治療認定機構暫定教育医  
がん治療認定医  
日本臨床腫瘍学会暫定指導医  
日本放射線腫瘍学会認定医  
がん化学療法認定看護師  
がん専門薬剤師

「中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム」により、大学院医学系研究科では「がん治療専門医育成プログラム」が設置されました。大学病院もがん専門医療人の育成のため、積極的に本プログラムに協力いたします。





## 平成20年度 第1回緩和インテンシブコース(岡山)

SP-CSS(スピリチュアル-カンファレンスサマリーシート)を使った  
医師のための援助的コミュニケーションとスピリチュアルケア研修会

日時:平成20年6月24日・7月15日・8月5日

講師:村田 久行 先生(京都ノートルダム女子大学生生活福祉文化学部教授)



3日間の研修が終了しました。  
村田先生、参加者の皆様おつかれさまでした。

## ○参加者より感想○

- スピリチュアルペインについて、構造化して、理解、アセスメントシークアへつなげることを集中して学べたことは、有意義で今後の診療に生かしたいと思いました。
- これまで「反復」という行為を意識してきたつもりだったが、その行為によってどのような効果があるのかということに疑問があり、十分に納得できていなかった。しかし、何度か会話記録を置いたり、他者の会話記録を読み合わせていくうちに、話の内容が深まっていく様子を経験することができ、その行為の重要性を理解することができて有意義な研修となった。
- 今まで聞いたことも見たこともない概念でとても新鮮な内容の研修でした。少人数の対話形式も非常に良かったです。
- 少人数で緊張感があり、印象に残りやすい。
- スピリチュアルケアについて基礎概念からしっかり理解できました。実際の会話記録を使用したLectureでは、スピリチュアルケアの難しさ、重要性を実感でき大変勉強になったと思います。今後さらに経験をつみ(実際の臨床で)、他の人にもこの技術(傾聴、反復)を広めていければいいと思います。

## 次回開催のお知らせ

対人援助の意味やスピリチュアルケアの基礎概念から実際まで、演習・ディスカッションを交えて学びます。臨床で終末期がん患者のケアに携わっている医師の方の積極的なご参加をお待ちしております。

日程:平成20年10月21日・11月11日・12月2日(全3日間)

場所:岡山大学病院入院棟6階カンファレンスルーム6B

※お申し込み方法など詳細は中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムのホームページをご覧ください。

がんプロホームページ:<http://www.chushiganpro.jp>

問い合わせ先: TEL/086-235-7023 E-mail/info@chushi.ganpuro.jp

## 平成20年度 第3回緩和インテンシブコース講演会(岡山)

平成20年9月9日(火)、岡山大学医学部臨床第2講義室において中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム緩和インテンシブコース講演会が行われました。昨年FD(Faculty Development)養成の一環としてカナダアルバータ州エドモントンにおいて緩和医療研修を実施しましたが、その際にご指導いただいたお三人の先生においていただき講演をしていただきました。

## Program

■18:00~18:10 開会の挨拶  
コンソーシアム協議会議長 田中 紀章

■18:10~18:50  
司会:岡山大学大学院医学総合研究科 消化器腫瘍外科 松岡 順治  
講演:「Canadian Medical Palliative Medicine Education: From Then Until Now」  
演者: Dr. Doreen Oneschuk  
Residency Program Director & Associate Professor University of Alberta

■19:00~19:40  
司会:香川大学医学部附属病院腫瘍センター長 合田 文則  
講演:「カナダアルバータ州における終末期ケアのシステムと実践」  
演者: Yoko Tarumi, M.D.  
Director Palliative Care Program Royal Alexandra Hospital

■19:50~20:30 総合討論  
司会 コンソーシアム協議会議長 田中 紀章

Canadian Medical  
Palliative Medicine  
Education: From Then  
Until Now

Dr. Doreen Oneschuk (オネスチャックと発音します) はアルバータ大学の卒後教育のディレクターで今回ご紹介いただいたカナダにおける緩和医療教育のトップとしてご活躍中のご高名な先生です。エドモントン緩和プログラムにおいて高次緩和ケアを担当するロイヤルエリザベト病院において緩和ケアを行いながら学生・卒業生の教育に携わっておられます。今回は「カナダにおける緩和医療教育—過去と現在—」というテーマで講演いただきました。2001年の調査によると、カナダの医学部で緩和が必修である大学は、17大学のうち2校に過ぎず、全学生の5%に満たない学生にのみ緩和医療教育がなされていました。平均11時間の教育が行われ、実際に患者に接することのできたのは4大学のみでした。また、この教育に満足を示した大学は、17大学のうち2校に過ぎず、改革が必要と考えられました。改革のためには緩和教育時間





を増やし、実際に患者さんに授け、症例を振り返り、すべての大学で緩和と教育を必須科目とすることが求められました。この結果に基づいてEFPPEC (Educating Future Physicians in Palliative and End-of-life Care, 将来緩和とケアと終末期ケアを担う医師の教育プログラム) というプログラムがオネスチャック先生によって始められました。このプロジェクトの目的は2008年までにカナダの17の医学部におけるすべての医学部学生と臨床研修医が緩和と終末期ケアの教育を受け十分な能力を持つようにすることでした。本年はその最終年で評価がなされることと思います。学部学生においてはその習得すべき技術については教えるべき内容が固まりました。研修医についてはその専門性を考慮しつつ現在も検討が続いています。今回は緩和的鎮静を例にとりて教育方法を講演していただきました。さらに非常に優れた教育方法としてIPI (Inter-professional Initiative) という教育方法を示していただきました。これはひとつの教室にすべての職種(看護、口腔衛生、体育、栄養、リハビリ、薬学、検査、リクリエーション、内科、言語など)の学生あるいは研修医が一堂に会して患者さんの緩和的治療について講義、演習を行うというものです。変革をもたらすためにはこのプログラムはきわめて有効であったとの結果でした。がんプロにおける共通コアカリキュラムの理想像を見た思いで拝聴しました。緩和と教育には実際の医療現場での教育と大学における教育が両輪となって行うことが重要であると結ばれました。

梅見葉子先生は札幌医科大学のご出身で現在アルバータ大学のassistant professorで緩和と医療現場と教育の現場で活躍されています。今回は札幌での学会出張の機会にご講演を御願いました。「カナダアルバータ州における終末期ケアのシステムと実践」という題目で講演していただきました。カナダの、特にエドモントンにおける、在宅緩和とシステムの充実度は多くの人が知るところです。しかし、90年代にはカナダにおいても緩和とケアのシステムを利用する人は2割で、急性期病院での死亡は約8割にのぼっていました。これがどういう方法で現在のような9割以上の利用率と在宅死亡の増加に結びついたかについては、これからの日本の医療、とりわけ緩和と医療がぜひ学ぶ点であると思います。95年にアルバータ州では 1) 緩和と医療サービスの利用率向上 2) 急性期病院での死亡数を減少 3) 1, 2達成のために、医療の継続性ある地域基盤のプログラムを立ち上げました。大きく分け

て3つの機能分化した組織、すなわち在宅ケア、急性期病院、高次緩和と病棟にわけて患者を中心にそれらを有機的に結合するようなシステムを作ったのです。急性期の病院では短期入院を中心とする急性期、教育病院、がんセンターなどからなります。この病院には緩和とコンサルテーションチームがあり、症状緩和、在宅への円滑な移行などについて支援します。在宅緩和とケアプログラムとして、アルバータ州がとった政策としては在宅医療の財源増加、家庭医への報酬改善、コンサルテーションサービス、教育(医療者、患者・家族)があります。在宅での緩和と医療を行う家庭医は90年代には少なかったようですが、収入面での改善もあり緩和と専門の家庭医も出てきているようです。複雑な症状を持つ患者さんが在宅で過ごす場合には、緩和とコンサルテーションチームが半日をかけて多職種専門家チームによるアセスメント、チームカンファレンスを行い、治療方針はレポートと録音テープにして家庭医、在宅チームへ翌日迄に情報提供することで家庭医と患者のサポートを行っています。また24時間オンコールで症状の変化に対応しています。このようなシステムがあつて初めて安心して家庭医も患者も在宅緩和とケアが行えるということです。また他の施設では症状コントロールが難しい患者さんは高次緩和とケア病棟へ入院し症状緩和を行います。このようなシステムが機能した結果、1994年から1999年にかけて全体の医療費と急性期病院における医療費が減少しました。一方医師の収入には変化なく、ホスピスなどの経費が増加しています。経済的にも大きな成功を収めたといつてよいと思います。また死亡までに何らかの緩和とケアプログラムを利用する人の割合は8割を超えています。このプログラムを支える大きな力となっているのは教育であること、特に学生の教育が重要であることを強調されました。

会場からは多くの質問が出ました。その中では若い人への手本となるような医療者であることを常に意識すること、コミュニケーション能力を磨くことなどが印象に残りました。

お二人とも厳しい日程でご講演をいただきましたが、思うことが伝えられたという充実感で感極まって涙されるというような場面もあり、実に感動的でありました。今後ともエドモントンとの連携を保ちながら、中四国の緩和と医療を充実させ広めていきたいと考えます。

文責 松岡 順治

## カナダアルバータ州における終末期ケアのシステムと実践

Yoko Tarumi, M.D.  
Palliative Care Program, Royal Alexandra  
Hospital, Edmonton, Canada  
Division of Palliative Care Medicine,  
Department of Oncology, University of Alberta





9 September	10 October	11 November	12 December	1 January
1月	1水	1土	1月	1木
2火	2木	2日	2火 第2回緩和ワーク ショップ(岡山)③	2金
3水	3金	3月	3水	3土
4木	4土 医学物理士 FDセミナー(岡山)	4火	4木	4日
5金	5日	5水	5金	5月 FDIドモントン ～21年1月9日
6土	6月	6木	6土	6火
7日	7火	7金	7日 「がん緩和医療」 集中講義(徳島)	7水
8月	8水	8土	8月	8木
9火 緩和インテグレーション 講演会(岡山)	9木	9日 「がん緩和医療」 集中講義(徳島)	9火	9金
10水	10金	10月	10水	10土
11木	11土	11火 第2回緩和ワーク ショップ(岡山)②	11木	11日
12金	12日	12水	12金	12月
13土	13月	13木	13土	13火
14日	14火	14金	14日	14水
15月	15水	15土	15月	15木
16火	16木	16日	16火	16金
17水	17金	17月 FDIソウル ～11月21日	17水	17土
18木	18土	18火	18木	18日
19金	19日 「がん緩和医療」 集中講義(徳島)	19水	19金	19月
20土 がん看護WG研究会(徳島) 徳島センター講演会(徳島)	20月 FDIシンガポール ～10月31日	20木	20土	20火
21日 FDIシンガポール ～9月29日	21火 第2回緩和ワーク ショップ(岡山)①	21金	21日	21水
22月	22水	22土	22月	22木
23火	23木	23日	23火	23金
24水	24金	24月	24水	24土
25木	25土 徳島消化器がん 化学療法セミナー	25火	25木	25日 「がん緩和医療」 集中講義(徳島)
26金	26日	26水	26金	26月
27土 第1回Oncology Seminar 合同講演会(川崎)	27月	27木	27土	27火
28日	28火	28金	28日	28水
29月	29水	29土 がん看護WG研究会 (岡山)	29月	29木
30火	30木	30日	30火	30金
	31金		31水	31土

中国・四国広域がんプロフェッショナル養成コンソーシアム  
第4回がん看護専門看護師コースWG研修会

がん看護における緩和ケア

日 時:平成20年11月29日(土) 13:30～16:30  
講 演:13:30～15:50(10分間休憩)  
質疑応答:16:00～16:30

テーマ:  
「緩和ケアにおける看護師の役割  
～がん患者の全人的苦痛とケア～」

講 師:淀川キリスト教病院ホスピス主任看護課長  
がん看護専門看護師 田村 恵子氏  
(NHKテレビ「プロフェッショナル 仕事の流儀」に出演されました)

場 所:岡山大学医学部保健学科棟3階 301講義室  
岡山市豊田町2丁目5-1(岡山大学豊田キャンパス内)

参加費:無料

主催:中国・四国広域がんプロフェッショナル養成コンソーシアム  
【お問い合わせ・申し込み先】  
岡山大学大学院保健学研究科 秋元典子  
TEL&FAX:086-235-6856  
E-mail:nakimoto@md.okayama-u.ac.jp  
◆当日参加も受け付けております

「がん緩和医療」集中講義

プログラム	開催日	開催場所	受講時間
PART-I	平成20年10月19日(日)	徳島県立中央病院	9:30～17:30
PART-I	平成20年12月7日(日)	徳島赤十字病院	9:30～17:30
PART-II	平成20年11月9日(日)	徳島県立中央病院	9:30～17:30
PART-II	平成21年1月25日(日)	徳島赤十字病院	9:30～17:30

対象:臨床腫瘍学教育課程大学院生(専門医、薬剤師コース)  
問合せ先:徳島大学 学務課 TEL.088-633-9649

※詳細はがんプロホームページをご覧ください。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム Vol.9

平成20年9月10日 発行

編集兼発行者  
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局  
TEL.086-235-7023

印刷所  
有限会社 ファーストプラン